



# ウクライナ 紛争の拡大・激化から 半年



2022年8月

# 赤十字・赤新月運動について

赤十字・赤新月運動は全世界で1,500万人以上のボランティアが参加している世界最大の人道支援運動であり、赤十字国際委員会（ICRC）、国際赤十字・赤新月社連盟（連盟）及び192カ国・地域の赤十字・赤新月社（以下、赤十字社）から構成されている。

世界192カ国・地域の赤十字社は、地域社会に根ざしたボランティアと職員からなる広大なネットワークを活かして、様々な人道支援を行っている。緊急事態が発生すると真っ先に現場に駆けつけ、他の組織が撤退した後も影響を受けた地域社会を支え続ける。

国際的な武力紛争が続いている間、各国赤十字社とICRCは、ジュネーヴ条約とその第一追加議定書及び赤十字・赤新月国際会議が採択した決議に基づき、特定の人道支援活動を行うための独自の任務と役割を果たす。国際人道法の下、各国赤十字社の職員とボランティア及びその人命救助活動は常に尊重され、保護されなければならない。

武力紛争のすべての当事者の当局は、現地の赤十字社または赤新月社による活動を尊重し、促進しなければならない。一方、各国赤十字社はいかなる場合も、独立、公平、中立など、赤十字・赤新月運動の基本原則を守ることを約束する。これは、各国赤十字社がすべての当事者の信頼を維持し、紛争の影響を受けた人々や地域への安全なアクセスを保つために極めて重要なことである。

連盟は、弱い立場に置かれた人々のニーズを満たし、生活を改善するために、緊急事態の前、最中、後に活動する各国赤十字社の取り組みを調整し、支援するために活動する。

ICRCは、武力紛争やその他の暴力的状況の影響を受けた人々の人道的保護や支援に努める独立した中立・公平な組織である。ICRCは緊急事態に対応し、戦闘に参加していない、もしくはかつて参加していた人々を保護し、戦争の手段や方法を制限する一連の規則である国際人道法の尊重を促進する。

我々は1つの赤十字・赤新月運動である。運動の各構成組織は相互に補完し合う独自の強みを持っており、そのため赤十字・赤新月運動は世界で最も弱い立場にある人々の苦しみを軽減するために連携して活動することができる。この運動の価値は、ローカルな支援とグローバルな支援の組み合わせにある。世界各国の赤十字社が現地の住民を支援する一方、世界的なネットワークが必要に応じて追加の緊急支援を提供する。

表紙写真：© Ukrainian Red Cross

戦闘によってデミディフ村に通じる橋が破壊された後、ウクライナ赤十字社の緊急対応チームのボランティアが川にかかる橋を建設し、15,000人以上の避難を支援した。

© International Federation of Red Cross and Red Crescent Societies and the International Committee of the Red Cross, Geneva, 2022

本出版物のいかなる部分も、出典を明記することを条件に、事前の許可なく引用、複製、他の言語への翻訳、または現地のニーズに合わせて翻案することができる。

[icrc.org](http://icrc.org) | [ifrc.org](http://ifrc.org)

# 目次

序文 .....	6
赤十字・赤新月運動はどのような支援をしているか .....	11
対応 .....	12
支援内容 .....	12
コレクティブインパクト* .....	13
赤十字社の活動 .....	14
中立・公平な人道的対応 .....	14
保健と医療 .....	15
統合的な人道支援で人々の緊急ニーズに対応 .....	19
保護 .....	23
ウクライナと近隣諸国における人道支援ニーズの高まり .....	26
冬の訪れ .....	28
社会的に追いやられた人々が取り残される恐れ .....	29
重圧に押しつぶされる医療システム .....	30
メンタルヘルスニーズの高まり .....	31
ホストコミュニティからの支援はひつ迫 .....	32
インフレと物資不足による影響 .....	32
先を見据えて：人道的対応の長期的な拡大 .....	34
先を見据えて .....	36
現地に合わせた対応 .....	36
ホストコミュニティと紛争で影響を受けた人々のいずれのニーズにも対応した人道支援活動 .....	37
寒い季節に紛争の影響を受けた人々の安全と暖を確保する .....	38
原則に基づく人道支援活動により、最も助けを必要としている人々の支援が可能に .....	39
捕虜を含む保護対象者の命と尊厳は尊重されなければならない .....	40
武力紛争に起因するニーズと複雑性の増大への対応 .....	40
脆弱な状況にある人々が必要とする最も適切で尊厳のある支援を提供する .....	40

「望むのはただ家に帰ること」：  
ウクライナ紛争の拡大・激化から  
半年



ラリサと2人の息子はオデーサからの避難民であり、スロバキアのセニカで自治体が運営し、スロバキア赤十字社のボランティアが支援する一時避難施設に身を寄せている。  
© IFRC

# 序文

## 想像を絶する苦難の半年

ウクライナでの半年に及ぶ紛争は、耐え難い苦しみと死と破壊をもたらした。

人的被害は増加の一途をたどっている。人々はすべてを捨てて命からがら逃げることを余儀なくされ、何千人の民間人が死傷し、多くの人々がトラウマとなるような出来事を体験し、緊急の保護を必要としている。学校、医療施設、住宅などのインフラも損傷または破壊された。

避難民の多くは女性や子ども、高齢者である。

彼らは、新天地でやり直すか、それとも不確実さや危険を覚悟で故郷に戻るのかという苦しい選択を迫られている。

1,300万人以上が家を離れて避難している。いまなお武力紛争の影響を受けた地域に住んでいる家族の多くは、家を離れる決心がついていないか、離れることができない人々である。メンタルヘルスの問題、収入の減少、家族の離散など、紛争の後遺症は避難した人々と紛争地域に残っている人々のいずれにも影響を及ぼす。

想像を絶する苦しみが生じているものの、人々が最も支援を必要としていたときに、人道の真の力が発揮されるのを我々は目の当たりにしてきた。世界中の多くの国が、避難してきた人々を暖かく迎え入れている。今回の危機に対する国際的な対応は、政治的な意思さえあれば、武力紛争やその他の危機から逃れてきた人々にどれほどの支援を提供できるかを示している。

**赤十字・赤新月社は数百万人の人々と地域社会を支援**  
過去半年にわたり、国際赤十字・赤新月運動は、必要不可欠な人道支援物資の配付、メンタルヘルス支援を含む医療の提供、現金・引換券の支給、給水・衛生サービスの提供、武力紛争の影響を受けた地域からの自主避難の支援などを通じて、何百万人の人々に手を差し伸べてきた。

赤十字社は長年にわたりウクライナの地で活動している。ウクライナ赤十字社は100年以上にわたって地域社会で活動しており、2014年からはICRCとともに、ウクライナでの戦闘で影響を受けた人々を支援してきた。連盟やこの地域の他の各国赤十字社も避難民を支援している。

2022年2月以降、ウクライナ、同国と国境を接する国（ベラルーシ、ハンガリー、モルドバ、ポーランド、ルーマニア、ロシア、スロバキア）、欧州の大部分の国、さらにはその他の国でも、数千人に上る赤十字社のボランティアと職員が緊急動員されてきた。赤十字社の対応要員は、現地でのプレゼンス、知識、経験を活かして、これらの国々でいち早く対応した。赤十字社は、家族の避難を手助けし、医療支援を行い、温かい食事を提供し、人々の体験談に耳を傾けるなど、これまでこれからも、我々を必要としている人々に寄り添い、支え続ける。

連盟は、ウクライナと近隣諸国の両方で、世界中の赤十字社からの支援を調整し、ここ最近で最大規模の対応に着手した。ICRCは対応を大幅に拡大しており、ウクライナ各地の10カ所で約700人の職員が働いている。連盟、ICRC、48カ国の赤十字社の支援によって、今回の武力紛争がもたらした人道危機への対応はまさにグローバルなものとなっている。

## 拡大する将来の人道支援ニーズ

本報告書では、ウクライナでの武力紛争で影響を受けた人々を支援すべく赤十字・赤新月社が行ってきた大規模な対応を振り返るとともに、今後数週間から数カ月の間に増加の一途をたどるであろう膨大なニーズを明らかにする。

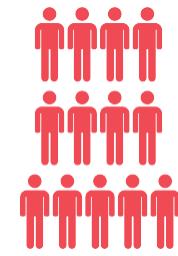
武力紛争が続き、冬が近づくにつれ、より多くの人々が避難を余儀なくされる可能性や、最も基本的なニーズを満たすことさえ困難な人々が出てくる可能性がある。また、たとえ紛争が明日終結したとしても、人々や地域社会、都市、環境が受けた影響から回復するには何年もかかるだろう。

このように膨大なニーズがあり、明確な終わりが見えない状況で、各國政府と人道支援部門はこの壊滅的な危機に対する長期的な対応に備えなければならない。今後、気温の低下、ホストコミュニティへの継続的なプレッシャー、メンタルヘルスや心理社会的ニーズの高まりを背景に、状況は向こう数カ月でますます複雑化する見通しだ。



すべての傷跡が目に見えるわけではない。ウクライナ赤十字社とICRCは共同で、ミコライウ地域の避難所に身を寄せる家族に心理的支援を提供した。  
© ICRC

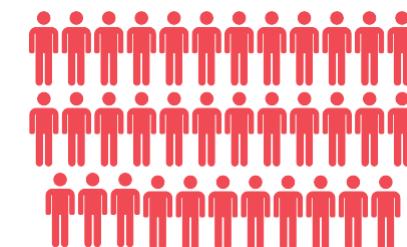
ウクライナでの武力紛争の間、ベラルーシ赤十字社の職員とボランティアはウクライナから到着した人々を支援している。ウクライナとの国境にあるホメリ地域では、応急処置、食料、宿泊施設、人道支援、心理社会的支援などの支援が行われている。  
© Belarus Red Cross



660万人以上が国内避難民となっている<sup>1</sup>



660万人以上が欧州で避難民として登録されている<sup>2</sup>



1,770万人以上が人道支援を必要としている<sup>4</sup>

1. IOM, Ukraine — Internal Displacement Report — General Population Survey Round 7 (23 July 2022)
2. UNHCR, [Operational data portal: Ukraine refugee situation](#) (19 August 2022)
3. UNHCR, [Unaccompanied and separated children fleeing escalating conflict in Ukraine must be protected](#) (7 March 2022).
4. OCHA, [Ukraine: Situation report](#) (19 August 2022)



最も必要とされる  
場所で緊急の  
人道支援を提  
供：  
赤十字・赤新月運  
動はどのような支  
援をしているか

# 対応

48以上  
の各国赤十字社



が対応に従事

10万人  
以上



のボランティア  
が参加

770人



の人道支援専門  
要員を迅速に派  
遣

## コレクティブインパクト\*



500万人  
に基本的支援（物  
資支援など）を提  
供



800万人  
に安全な水の提供



718,000人  
に保健医療支援を提供



本当に感謝しています。何もないときは、すべてが助けになるのです。”

— リディアは母親と兄弟とともにポーランド北部の赤十字社の避難所に身  
を寄せており、家族が必要とするものを購入できるよう連盟とポーラ  
ンド赤十字社から現金支給を受けた。

\*本報告書に記載されているすべての赤十字・赤新月運動関連の数値は、2022年2月24日～7月31日に報告された連盟、ICRC、各国赤十字社からのデータを表している。

## 支援内容



保健と医療  
(給水・衛生及び衛生促進を  
含む)



統合的な支援  
(現金・引換券支給、避難所、  
救援物資など)



保護と予防



ルーマニアのペテアにある国境検問所で、ウク  
ライナから到着した人々に食料と水を渡す赤十  
字社のボランティア。ルーマニア赤十字社は国  
境沿いのすべての支部からボランティアを派遣し、  
食料、水、基本的な支援物資、衛生用品を必  
要としている人々に配付している。また、身  
内と連絡を取り合えるようにSIMカードも配付し  
ている。  
© Romanian Red Cross

# 赤十字社の活動

## 中立・公平な人道的対応

国際的な武力紛争が続いている間、各国赤十字社とICRCは、ジュネーヴ条約とその第一追加議定書及び赤十字・赤新月国際会議が採択した決議に基づき、特定の人道支援活動を行うための独自の任務と役割を果たす。

公平



赤十字・赤新月運動は、国籍、人種、宗教、社会的地位、性的指向、性自認、または政治上の意見によるいかなる差別もしない。

中立



赤十字・赤新月運動は、紛争当事者のいずれの側にも加わらず、支持もしない。

独立



赤十字・赤新月運動は独立である。各の赤十字社は、その国の政府の人道的事業の補助者であるが、常にその自主性を保たなければならぬ。



赤十字・赤新月運動は公的機関と連携するが、その活動は常に独立しており、政治的目標やその他の目標ではなく、人々のニーズを原動力としている。中立・公平で独立した人道支援活動は抽象的な概念ではなく、赤十字・赤新月運動のすべての活動の指針となる基本的因素である。

それは、紛争の影響を受けた人々であれば、前線のどちら側にいようと手を差し伸べ、手助けし、多くの場合、命を救うことを可能にする活動方針である。中立・公平で独立した人道支援活動へのコミットメントは、紛争の影響を受けた地域に受け入れられ、立ち入るために不可欠であり、これにより赤十字・赤新月運動は他の組織が活動できない場所で活動することができる。

## 保健と医療

### 増大する健康問題への対応

赤十字・赤新月運動は、医療物資、医療スタッフ、基幹インフラの不足が日々深刻化する中、増大する健康問題への対応を支援している。



800万人  
に安全な水を提供



718,000人  
に保健医療支援を提供



368,000人  
に精神保健・心理社会的  
支援（こころのケア）を提  
供



984,000人  
が衛生用品の恩恵を  
享受

### 支援内容：

- 応急処置の実施と訓練
- 巡回診療所を通じた医療支援の提供
- リソースや医療物資を提供することによる、既存の保健施設にかかる負担の軽減
- 健康的な生活習慣の促進、新型コロナウイルス感染症を含む伝染病の予防と管理
- メンタルヘルス支援や心理社会的支援の提供
- 清潔な給水・衛生設備へのアクセスの確保



© Ukrainian Red Cross

戦闘の最中であっても、ウクライナ赤十字社は紛争の影響を受けた人々や地域社会を支援している。ボランティアは、防空壕や地下鉄の駅に身を隠していた人々も含め、6万人以上に応急処置の訓練を行ってきた。



### ウクライナ：ウジュホロド赤十字保健センター

スロバキアとの国境の町、ウクライナのウジュホロドでは、赤十字ネットワークの支援の下、ウクライナ赤十字社が保健診療所を運営し、国内避難民の流入によって増大した医療ニーズを支援している。「人々は急いで家を出なければならなかつたため、常備薬を持ち出すことができませんでした」と診療所の薬剤師であるオレシアは言う。

この診療所では困っている人々を対象に無料で診察、治療、投薬を行っており、現地の地域住民や国内避難民など、すべての人々に開かれている。

検査を受けるために診療所を訪れたオレクサンドルは、「感謝の言葉しかありません。私たちを気遣ってくれるすべての人に感謝しています」と述べた。

## 紛争によるストレスやメンタルヘルスへの悪影響に対処するための支援

赤十字・赤新月社の多くの職員とボランティアは、心理的応急処置を含む精神保健・心理社会的支援を提供するための訓練を受けており、緊急事態や災害で影響を受けた人々のストレスの兆候を察知し、最善の支援方法を判断することができる。

紛争の影響を受けた人々を支援するために、ウクライナ赤十字社は全国規模の心理的支援ホットラインを運営しており、人々は全国どこにいても、必要なときにはメンタルヘルス支援を受けることができる。相談数の増加を受けて、ICRCは精神保健・心理社会的支援を必要とする人々をサポートするために、追加のホットラインを開設した。

**“一番衝撃的だったのは、子ども連れの多くの母親のケアをしたときです。胸が張り裂けそうでした。怒ったり悲しんだりしている人にとっては、食べ物を提供するよりも、話を聞いてあげるほうが助けになることもあります。”**

— リヴィウのウクライナ赤十字社で長年ボランティアをしているマリア。



ポーランド赤十字社の「チャイルド・フレンドリー・スペース」で連盟のスタッフと遊ぶ子ども。このスペースは現金支給センターに設置されており、親が現金支給の登録手続きをしている間、子どもたちが遊べるようになっている。

© IFRC

過去半年間、連盟とICRCは、精神保健・心理社会的支援を行うウクライナ赤十字社の能力を高める手助けをしてきた。ICRCは、職員とボランティアのための心理的支援プログラム「ヘルプ・ザ・ヘルパーズ（Help the Helpers）」も主導している。これはミコライウで実施されており、さらに東部にも拡大中だ。

連盟は、欧州連合が資金を拠出し、チェコ共和国、ハンガリー、ポーランド、ルーマニア、スロバキアで30万人を支援するプロジェクトなど、紛争の影響を受けた人々への支援能力を高めるべく各国赤十字社と協力するとともに、デンマーク赤十字社と連携している。これにより、オンラインや電話など様々なプラットフォームを通じて、より多くの人に複数の言語でメンタルヘルス支援を提供できるようになるだろう。

### メンタルヘルスニーズをどのように支援しているか：

- ・一緒に座って話を聞く
- ・ストレスの一般的な兆候、症状、反応に関する情報を提供し、啓発する
- ・よりきめ細かなメンタルヘルス支援が必要な人の照会を行う
- ・避難所での料理パーティーなど、社会的活動を計画する
- ・チャイルド・フレンドリー・スペース（子どもの遊び場）を整備し、子どもにやさしい活動や保育者を対象とした集会活動を実施する
- ・包摶性と差別の防止を促進するのに役立つスポーツ活動やレクリエーション活動を主催する



### スロバキア：子どもたちが遊ぶための安全なスペース（チャイルド・フレンドリー・スペース）

遊び場には大きな力がある。4歳のズラタは最近、ウクライナから母親と一緒にスロバキアのフメンネという町にやってきた。母親が隣のスロバキア当局で登録手続きを行っている間、ズラタはスロバキア赤十字社が設置したチャイルド・フレンドリー・スペースで遊んでいた。

チャイルド・フレンドリー・スペースは、駅などの乗り継ぎ地点や、現金支給センターや登録センターなど待ち時間が発生する場所に設置されることが多い。その目的は、心理社会的な健康を促進し、子どもたちに安全なスペースを提供することにある。

このような安全なスペースを通じて、子どもたちは社会性を身につけ、遊ぶ機会を得ることができる。また、子どもたちとその保護者に教育、情報、ヘルスケア、照会のほか、心理社会的支援を提供する機会にもなる。

ロシア：散髪しながら話に耳を傾ける

ナターリアは、2014年からベルゴロドのロシア赤十字社で美容師として働いている。散髪サービスは、ウクライナでの紛争から逃れてきた避難民に無料で提供されている。

水も電気もない地下で数週間、場合によっては何ヵ月も過ごした後で、人々はセルフケアを求めている、とナターリアは言う。

散髪は、それぞれの客にささやかな日常をもたらすだけでなく、誰かと話し、心理的支援を受ける機会にもなる。

「散髪は、男女を問わず人を明るくしてくれます」とナターリアは語る。



## 極めて重要な清潔な水と電気の提供

清潔で安全な水へのアクセスは不可欠であり、このアクセスが途絶えると悲惨な結果になりかねない。

ICRCは武力紛争の影響を受けた地域で、戦闘によって損傷した重要な水道インフラの復旧を支援し、公共水道事業者がネットワークの準備と復旧を行えるよう物資援助を提供している。この給水・衛生に関する活動には、水系伝染病の予防を目的とした現地水道局に対する浄水剤の購入支援、緊急用の貯水槽や水汲み場の設置、給水車を使った現地救急隊への支援なども含まれる。

連盟とウクライナ及び近隣諸国の赤十字チームは、衛生用品（歯ブラシ、石鹼、生理用ナプキンなど）の配付、手洗い場の設置、衛生促進活動などを行っている。



### ウクライナ：武力紛争の影響を受けたミコライウで水を提供

人口約50万人のミコライウ市の住民は、水道が止まって以来、ウクライナ赤十字社のボランティアが市内各地に設置した給水所を頼りにしている。

ICRCは、ウクライナ赤十字社による給水強化のための井戸建設を支援するとともに、現地当局に飲料水、給水車、インフラを提供した。

## 統合的な人道支援で人々の緊急ニーズに対応



6,360万  
スイスフラン  
の資金援助を実施



626,000人  
に現金給付



500万人  
に基本的支援  
を提供

### 支援内容：

統合的な人道支援は、以下の活動を通じて、紛争の影響を受けた人々の緊急のニーズと長期的なニーズの両方を満たすことを目的としている。

- 多目的の現金・引換券を支給
- 適切な住居の確保を支援
- 避難民を受け入れている世帯に、受け入れに伴う金銭的負担増を賄うための現金を支給
- 食料、台所用品、衛生キット、衣類などの基本的な救援物資を提供

### 現金・引換券給付を通じて人々に力を与える

2017年から2020年にかけて、赤十字・赤新月運動は162カ国の人々に、32億6,000万スイスフラン以上の現金を支給した。

赤十字・赤新月運動が行っている現金・引換券給付は、その歴史上最大規模のものとなる見通しだ。連盟やICRCの支援を受けて、各国赤十字社はハンガリー、ポーランド、ルーマニア、ロシア、スロバキア、ウクライナで現金支給を開始しており、他の国でも間もなく実施される予定である。

ウクライナでは、ウクライナ赤十字社、ICRC、連盟及び各国パートナー赤十字社が、ウクライナ社会政策省と連携し弱い立場に置かれている人々に現金や引換券を支給している。他の国々でも、ウクライナから到着した人々を支援するために、国内で独自の現金給付を行っている。

“ポーランドの人々や赤十字社はとても寛大です。少なくとも頭の上には屋根があり、食べるものもあります。”

—娘のアナ斯塔シアと一緒にワルシャワに滞在しているイリーナ。

イリーナは、連盟史上最大の緊急現金給付プログラムの一環として現金支給を受けた最初の女性の1人である。2022年4月にポーランドで開始されたこの現金支給では、今後数カ月で200万人以上のウクライナ避難民に支援を届けることを目指している。

© IFRC



こうした大規模な現金給付を複数の国で開始・運営することは、複雑なプロセスである。複数の国にまたがるプログラムでは、異なる通貨、言語、法律、政府間の調整を行わなければならない。また、現金や引換券の支給は国によって少しづつ異なっており、電子送金を行う赤十字社もあれば、キャッシュカードや小売店用の金券を使う赤十字社もある。

また連盟は、地域の各国赤十字社と協力し、現金給付プログラムをそれぞれのシステムに統合しようとしている。研修や共有ツールによって、各国赤十字社は将来の災害や緊急事態に備えて独自のプログラムを策定できるようになる。

ウクライナにおいて、ICRCは現地市場、特に援助物資が現在配付されている現地市場をモニタリングしている。市場が回復し始めるのに伴い、ICRCは現物支援ではなく、現金給付の機会を増やしていく予定だ。これにより人々の選択肢が広がり、紛争の影響を受けた人々が住む地域の市場を再活性化するのに役立つ。

## なぜ現金なのか？

現金・引換券給付は、人道的緊急事態の影響を受けた人々を支援する最良の方法の1つである。迅速で費用対効果が高く、尊厳のある支援方法であり、人々は具体的に必要とする物を購入することができる。また、地域経済を支えるとともに、影響を受けた人々が自分自身や家族のための意思決定において積極的な役割を果たせるようになり、ひいては復興にも役立つ。

## 人々は現金を何に使うか？

現金は、とりわけ特定のニーズを持つ人々に柔軟性を与える。例えば、食事制限のある人は、必要とする特定の食品を購入することができる。



家賃



食料品



衣服



医薬品



その他多数



© ICRC

## ウクライナ：芸術による癒し

ステパンは子どもの頃から絵を描くのが好きだった。学校の休み時間には、漫画を描いてクラスメートを楽しませたものである。2004年には、初めて絵が売れた。ステパンの作品は、生まれ故郷のウクライナ・ヤブキノ村以外でも人気となり、ある程度の収入をもたらした。

3月下旬の銃撃で民間人3人が死亡し、十数人が負傷したとき、ステパンもいくつかの銃弾の破片を浴び、そのうち1つが脚を貫通した。芸術はここ数カ月間の苦難から精神的に逃れる術を与えてくれる。だが、怪我の影響で収入を得ることができていない。

ICRCチームは、戦闘の影響を受けた民間人を支援するプログラムの一環として、ステパンに経済的援助を行った。



© IFRC

## ルーマニア：生きるために現金給付を受ける

オデーサ出身のミラは、ウクライナでの紛争から逃れ、母親と2人の娘とともにルーマニアに落ち着いた。ルーマニアでは数千人の人々がルーマニア赤十字社や連盟から現金給付を受けており、彼女も自分と家族を助けるために現金支給を受けている1人である。

「連盟の現金給付プログラムへの登録は簡単でした。問題なく行うことができ、登録後間もなく最初の現金支給を受けることができました」

「最初の出費は食べ物でした。バレニキのようなウクライナ料理は、故郷とのつながりを感じられるので作るのが大好きです」

2022年4月以降、ルーマニアでは48,000人以上が現金給付プログラムの一環として支給を受けた。



## 保護

赤十字・赤新月運動は保護活動を通じて、暴力、差別、排除の問題を予防し、これらの問題に対応することを目指すとともに、人々が尊重され、その権利が保証されるよう努めている。



**66,000人**  
に対して**保護、  
ジェンダー及び  
包摶**プログラム  
を提供



**13,000人**  
を中央追跡調査局  
とファミリーリン  
ク・ネットワーク  
が追跡し、**保護**



**2,000人**  
を中央追跡調査局  
とファミリーリン  
ク・ネットワーク  
が**搜索**

この活動には以下が含まれる。

- 紛争の影響を受けた人々のニーズとリスクを評価する
- 赤十字・赤新月社の職員を対象に、保護、ジェンダー及び包摶の原則、性的搾取と虐待の防止に関する研修を実施する
- 紛争の影響を受けた人々の間で、支援を受ける方法とフィードバックを提供する方法について啓発する
- ICRCが収容場所を問わず戦争捕虜や民間人の被拘束者を訪問して待遇や収容環境を評価し、家族を安心させる
- 離ればなれになった家族を再会させ、行方不明者に関する情報を提供する
- ウクライナで地雷・不発弾を除去して地域の安全性を向上させ、地雷の安全性とリスク認識について情報を共有する
- 中立・公平な仲介者として、紛争当事者と合意の上、厳密に人道的な条件で、紛争が継続している地域からの安全な経路を通じた自主的な脱出を支援する

## 捕虜とICRCの役割

武力紛争の際、捕虜は特に虐待を受けやすい。ジュネーヴ第三条約の下、ICRCは捕虜が収容されている場所ならどこへでも行く権利があり、訪問希望場所を自由に選ぶことができる。ICRCは、捕虜がどのように扱われているかを把握するために捕虜と繰り返し話をし、国際人道法に定められた



## 家族からの問い合わせ

2月以降、ICRCには身内の消息を尋ねる電話やメールが26,000件以上寄せられている。その多くは、何週間・何カ月も身内から連絡がないことに絶えず苛立ち、絶望し、怒りを感じている捕虜の家族からのものだ。ここでは、そのうち2つの問い合わせを紹介する。

「最後に息子から連絡があったのは1カ月以上前です。洋服を送ってほしいと言われたので、それ以来、息子が好きなデザインの服を縫っています。息子の心の健康や、何を食べて何を飲んでいるのかがとても心配です。ただただ生きて帰ってきて欲しいのです」  
— ナターリア

「今度夫に会ったら、昨日赤ちゃんが生まれたと伝えてください。体重は3,400グラムで、身長は54センチです。母子ともに健康で、あなたの帰りを待っています」

基準が満たされているかどうかを判断するために捕虜が収容されているすべての施設を訪問する法的権利を有する。こうした面談や訪問の目的は、捕虜の名譽と尊厳が尊重されており、収容環境が法律や国際的に認められた基準に沿っているかどうかを確認することにある。

過去半年の間に、武力紛争に関連して拘束された人々を含め、約6,000人の被拘束者がICRCから支援を受けた。ICRCは、被拘束者を収容している施設が捕虜を含む被収容者に一次医療サービスを提供できるよう医薬品やその他の物資を提供した。また、インフラの復旧や改良も支援した。被拘束者の収容施設には、衛生キットや寝具（マットレス、ベッドシーツ、枕、毛布）などの生活必需品と食料品が大量に寄付された。被拘束者や新たに解放された人々の家族には、収入を増やせるように現金が支給された。

## 身内の消息を知らせる

ジュネーヴ条約に基づき、ICRCは身内と離ればなれになった人々を支援する重要な役割を果たしている。中央追跡調査局は、ICRCの最も初期の部局の1つとして150年以上もの間、身内と離ればなれになった人々を支援してきた。この活動を支援するために、ICRCは3月に、ウクライナでの国際武力紛争に特化したCTA事務局を発足させた。このCTA事務局は、拘束された軍人と民間人の安否や所在に関する情報を収集して一元管理し、伝達する。また、戦闘から遠く離れたジュネーブに拠点を置くCTA事務局は、身内と離ればなれになった人々を支援するため、ICRC代表部、ウクライナ赤十字社、ロシア赤十字社、その他35の赤十字・赤新月社による活動を調整するほか、身内と再会するための緊急渡航書類の取得を手助けすることもできる。

ICRCは中立的な仲介者として、被拘束者、行方不明者、死亡した人々に関する情報を持っている可能性のある武力紛争当事国の当局と守秘義務に則って対話している。我々は、行方不明の身内の所在や安否を探るウクライナやロシアの家族を手助けする当局の活動を支援し、この活動をサポートするためのツール、機材、技術指導を提供している。

ICRCはこれまでに、国家情報局を通じて、あるいは家族に直接、**8,000回**以上にわたって人々の所在に関する情報を伝達してきた。また、「離散家族支援ネットワーク（Restoring Family Links Network）」によって、ウクライナやロシア以外の国に渡航した人々にも情報が提供されている。CTAは、軍人とその家族を含む**13,000人**以上の情報を収集し、追跡調査し、保護してきた。

CTA事務局は、失踪を防止し、赤十字・赤新月運動が現在及び将来の離散家族を支援できるよう、この情報を必要な限り保持する。

週に**1万5千件**から**2万件**の電話がかかってきます。3番目（に多いの）は、家族との再会・連絡回復の依頼です。紛争によって多くの人が身内との連絡を絶たれました。こうした人が大勢いるのです。”

— ウクライナ赤十字社情報センター（リヴィウ）のコーディネーターと副コーディネーターを務めるウオロディミルとアンドリー。



ICRCが支援した「安全な経路作戦」中に、10,300人以上の人々がスムイおよびマリウポリ地域から避難した。  
© Ed Ram/Guardian/eyevine/Dukas

## 子どもの教育と差別防止の支援

危機の際、教育は極めて重要な仕組みと未来への希望を与えてくれる。教育は子どもや若者の安全確保に役立つか、認知、社会、情緒の発達に不可欠なものもある。赤十字・赤新月運動は、武力紛争で被害を受けた学校の復旧支援、サマースクール・プログラムの実施、学用品の提供など、



## ハンガリーとルーマニア：子どもの教育

ハンガリーのツェルマヨールで、赤十字社は16歳までの子どもを対象にした教育プログラムを実施している。このプログラムの目的は、ハンガリーの学校に通う準備を整え、読み書きを学ぶ意欲をかき立てることにある。

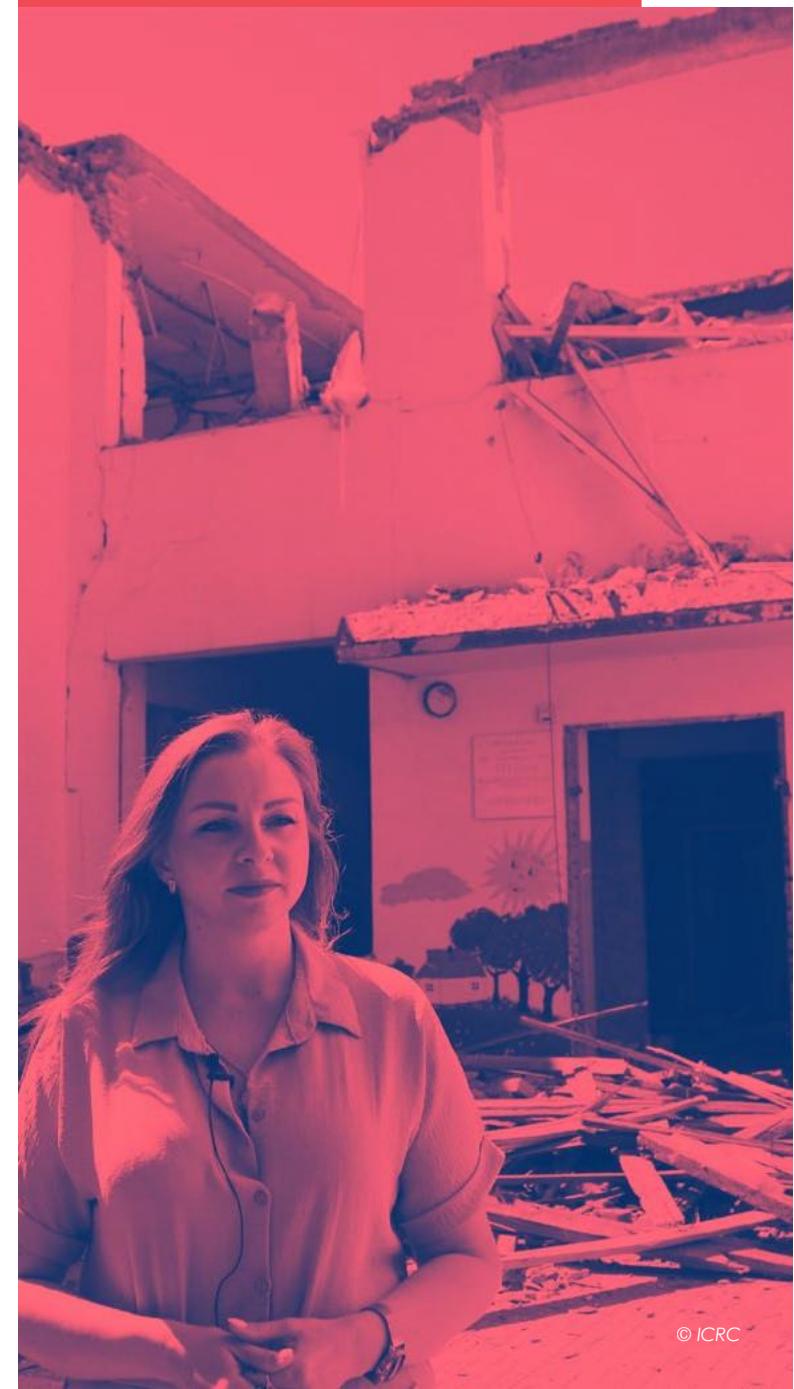
教師の1人であるラズロは言う。「子どもたちのほとんどは学校に行ったことがないので多くの遊びの要素が必要ですが、総じて学ぶことに熱心です」

ルーマニア赤十字社が運営するサマースクール・プログラムでは、子どもたちにルーマニア語やストレスへの対処法を教えてている。いずれのプログラムも、ウクライナから来た子どもたちが現地の子どもたちと出会い、親しくなるきっかけにもなっている。

子どもたちが安全な環境で学び、成長できるよう、教育を支援している。

## ウクライナ：学校の再建

イリーナ・ヴォロシェンコは、マカリウ地域の教育長である。この幼稚園のように、管轄地域のいくつかの学校は今年初めの戦闘で大きな被害を受けた。ICRCは彼女と協力し、8つの教育施設の再開を支援している。



# ウクライナと近隣諸国における人道支援ニーズの高まり



ウクライナ中部から避難してきた9歳のアルテムと母親は、  
夕方からの移動に備え、リヴィウ駅に設営された赤十字社の  
テントで休息をとっている。

© IFRC

## 冬の訪れ：氷点下の気温の中、必須サービスが滞れば悲惨な結果を招くだろう

夏の終わりが近づくと、今度は冬の足音が聞こえてくる。寒さは毎年やってくるが、武力紛争の影響を受けた人々にとって、備えがなければ致命的な結果につながりかねない。

戦闘の影響を受けた地域では、暴力の蔓延や重要な民間インフラへの攻撃により、人々が生き延びるために必要な食料や物資、サービス入手することがすでにますます困難になっている。水、電力、ガスの供給システムが損傷したことで、医療施設や学校、人々の日常生活に影響が出ている。

住宅の被害も大きな懸念事項で、寒い季節に多くの人が十分な暖房がないまま過ごすことになりかねない。6月初めの時点で、少なくとも4,480万平方メートルの住宅が被害を受けたと推定されている<sup>5</sup>。窓ガラスが割れるなどの軽微な被害でも、寒い季節には大きな影響が出る。戦闘が続いている地域では、多くの人が地下室や、避難民のための避難所に改装した建物に避難しているが、多くの場合、そこには水も暖房も電気もない。



ヴィタリ、婚約者のヴァレンティナとその母親のスヴィトラン、そして猫のティモーシャは、数日前にウクライナ北部のチェルニーヒウを離れた。ヴィタリは車椅子生活であり、電気がなければエレベーターで地下に避難できないため、チェルニーヒウにとどまつていられなかつたのである。イタリア赤十字社は、彼らが必要なるべき支援を受けられるよう、イタリアへ渡航するための交通手段を手配している。

© IFRC

5. Kyiv School of Economics, [Direct damage caused to Ukraine's infrastructure during the war is \\$103.9 bln due to the last estimates](#) (9 June 2022)

## 社会的に追いやられた人々が取り残される恐れ

特に弱い立場に置かれた人々は、放置されてしまう危険性がある。

このような事態を防ぐのは、関係するすべての人道支援団体と政府の責務だ。

避難民の大半は、女性、子ども、高齢者、障がい者である。保護者のいない子どもの数が多いことも懸念されており、彼らは暴力、虐待、搾取、人身売買の対象となるリスクが高い。LGBTQ+コミュニティの人々は、差別、ハラスメント、虐待を受ける特有のリスクにさらされている。

“このつらい時期に、私たちは以前よりさらに力を失っています。何かを持ってくれるボランティアがいるのは心強いことです。現物を支給してくれるだけでなく、精神的な支えにもなっており、とても助かっています。”

— ウクライナ赤十字社のボランティアから物資を受け取った、ウクライナのミコライウに住むハリーナ。

近隣諸国に避難した女性は働き口を見つけるのに苦労しているかもしれない、高齢者や障がい者も同様だろう。女性移住者は、市民である女性や男性移住者よりも雇用される見込みがたださえ低い上、低賃金の仕事に就く可能性も高い。これにさらに拍車をかけるのは、ウクライナから逃ってきた多くの女性が1人で子どもの世話をしていること、つまり育児のために低賃金の仕事の柔軟性が必要な場合が多いという事実である<sup>6</sup>。

近隣諸国に避難した人々の中には、一時保護登録をしていない人もいる<sup>7</sup>。一時保護は、新たな国に滞在する人々に住居を与え、社会扶助や医療などを受けられるようにするものだ。本人や家族がこうした保護に登録しない理由は様々だが、これは彼らが必要とする重要なサービスの多くを利用できない可能性があることを意味する。

上記のような要因や支援の不足は、いずれも人身売買や性的搾取、虐待のリスクを高める。

6. VOXEU, [The labour market disadvantages for immigrant women](#) (30 March 2022).

7. UNHCR, [Lives on hold: Profiles and intentions of refugees from Ukraine](#) (July 2022)



© IFRC

## ポーランド：欠かせない物

ヤナは、ウクライナ中部の故郷で砲撃が始まると前は、銀行の支店長兼菓子職人であった。

「2月24日、何が起きているのかわからないまま目が覚めました。とても大きなサイレンの音が聞こえたのです」

長旅の末、ヤナと子どもたちはポーランド北部に到着し、現地の赤十字社から支援を受けた。

「赤十字社はおむつやベビーフード、新しい洋服をくれました。子どもたちにとって服が増えるのはとても大切なことです。私は洋服を1人に2着ずつだけ持て帰りました。上の子はここの幼稚園に通っているので、もっと服が必要です」。

“将来の計画があった頃に蓄えた貯金で生き延びています。私たちには将来のため、休暇のための大きな計画がありました。すべてが変わり、今はその日暮らしの生活です。”

— 夫と2人の子どもと一緒にドンバスに住むビクトリアは、ICRCから援助を受けた。

## さらなる負担を強いられる医療システム

武力紛争が始まった頃、世界中の医療システムはまだ新型コロナウイルス感染症（COVID-19）のパンデミックによる新たな負担の対応に追われていた。こうした負担はある程度和らいでいるものの、COVID-19のパンデミックは続いている、多くの未知の要素があるため、すでにひつ迫している医療システムにさらなる負担を強い恐れがある。

ウクライナでは過去半年間に350以上の医療施設への攻撃があり、必要な医療サービスを受けることが一段と困難になっている<sup>8</sup>。医薬品や酸素など、重要な医療物資もますます不足している。医療の対応能力が限られていることに加え、

一部の地域では安全な飲料水が不足しているため、コレラなどの深刻な病気が発生するリスクが高まっている。ウクライナ西部では避難民が多いことから、医療施設にかかる負担も大きくなっている。

ルーマニア、ベラルーシ、ハンガリー、モルドバなど、国境を接する国の医療システムも厳しい状況にある。各国ともより多くの人々に医療支援を提供するようになっており、その結果、COVID-19の後遺症からまだ回復していない人や慢性的な健康不安を抱える人に向けられる貴重な医療資源が減ってしまう恐れがある。



ICRCの緊急医療チームは、ドネツク地域の紛争で影響を受けた地域からの傷病者の避難を支援している。

© ICRC



ハンガリーの一時避難施設では、赤十字ネットワークチーム（スペイン赤十字社を含む）が高齢女性の健康支援を行っている。

© IFRC

8. World Health Organization, [Surveillance system for attacks on health care](#) (10 August 2022)

## メンタルヘルスニーズの高まり

6月初め、ウクライナ保健省は、武力紛争によって1,500万人が心理社会的支援を必要とし、300万～400万人が治療を必要とする可能性があると推定した<sup>9</sup>。

紛争の影響を受けた人々は、まだ家にとどまって紛争という予測不可能な事態に対処している人であろうと、近隣諸国に避難していつ帰国できるかわからない人であろうと、大きなストレスと不安に耐え続けている。何百万人もの人々が経験したトラウマや避難は、メンタルヘルスに長期的な影響を及ぼす可能性が高い。我々はメンタルヘルスの治療が受けられないと本人や家族、地域社会に長期的な影響が生じ得ることを知っている。また、紛争が子どもたちのメンタルヘルスに特に深刻な打撃を与えることもわかっている。

紛争の影響を受けた人々が早期に一貫した支援を受けすることが欠かせない。メンタルヘルス支援と心理社会的支援は、今回の危機に対する赤十字・赤新月運動の対応において重要な役割を担っているが、我々は引き続き、紛争の影響を受けた人々をより効果的に支援する方法を模索している。

皆さんとても親切で、「心配しないで、大丈夫だから」と声をかけ続けてくれました。戦争が終わったら、キーウに帰りたいと思っています。”

— 子どもを連れて移動中の従姉妹のスペトラーナとマリアは、BOKスタジアムでハンガリー赤十字社から衣類と衛生用品を受け取った。

ベルゴロドでは、ロシア赤十字社の職員とボランティアがウクライナ紛争による避難民に対し、心理社会的支援などを必要な支援を提供している。  
© Russian Red Cross



9. OCHA, Ukraine: [Situation report](#) (9 June 2022)

## ホストコミュニティからの支援はひつ迫

支援活動はウクライナの近隣諸国だけでなく、欧洲、中央アジア、そしてそれ以外の国でも盛んに行われている。コミュニティは何百万人もの避難民を受け入れ、サポートしている。

しかし、ロシアやポーランド、その他の近隣諸国に何百万人の人々が到着したため、多くのホストコミュニティは苦境に立たされており、ホストファミリーは支援を提供しなければならないというプレッシャーの高まりにさらされている。近隣諸国は避難民を歓迎しているが、大量に流入すれば、次第にホストコミュニティに負担がかかるようになりかねない。

このような避難民の流入は、住宅、医療、雇用、学校などにさらなる負担をかけることになり、武力紛争が続くにつれその負担は大きくなるだろう。インフレや燃料・食料といった必需品の不足も、紛争から逃れてきた人々をホストコミュニティがどれだけ支援できるかに影響を与える可能性がある。

## インフレと物資不足による影響

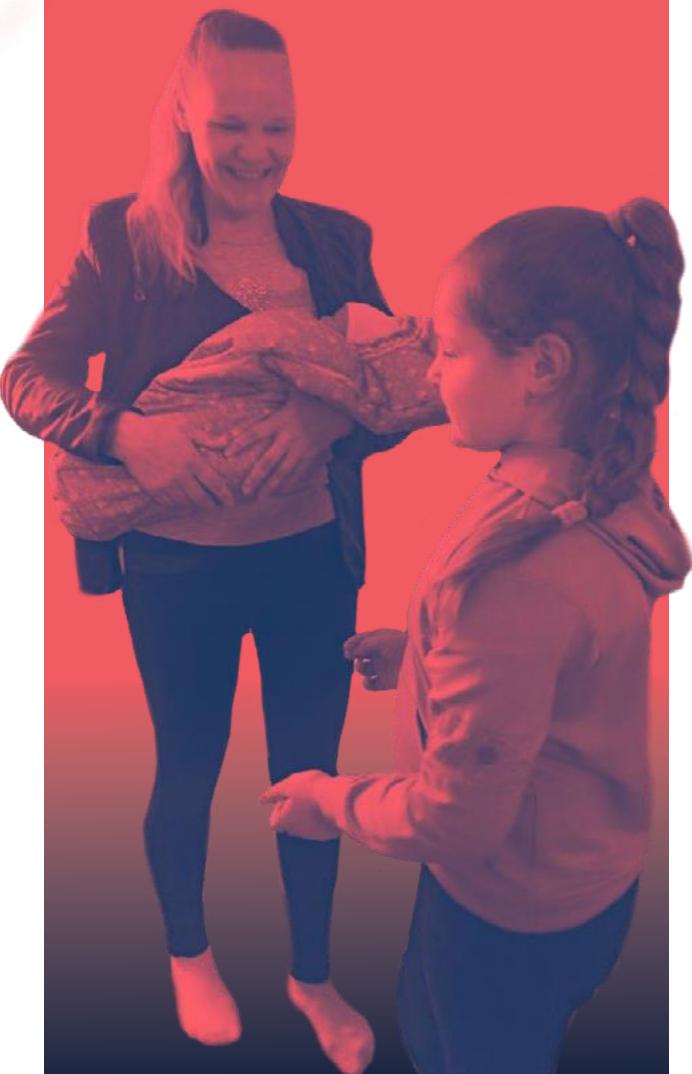
武力紛争は世界経済にも広範な影響を及ぼしている。食料・燃料価格の高騰は食料危機の悪化など悲惨な結果をもたらしており、人々は切実に必要としているサービスや食料、物資を一段と入手しづらくなっている。

### ベラルーシ：増える家族のためのアパートと雇用

アレクサンドルと妊娠中の妻アナスタシア、そして3人の娘は、ウクライナ紛争のためにマリウポリを離れた。ベラルーシのブレストに到着して3日後に息子が生まれた。アナスタシアと赤ちゃんは、産院からベラルーシ赤十字社の危機対応センターに移った。

1ヶ月もしないうちに、一家にはアパートが提供され、ベラルーシ赤十字社は家具や家電、食器などを集めて家をより快適なものにした。アレクサンドルは、赤十字社と州のパートナーから就職支援を受けた500人以上のウクライナ出身者の1人である。

重大な問題は解決されたとはいえ、一家は将来について不安を抱いている。アナスタシアは言う。「ベラルーシにとどまりたいと思っていますが、状況次第です。まだわかりません」



連盟はハンガリーのデブレツェン（ウクライナ国境から約1時間）の倉庫に救援物資をあらかじめ配備しており、その多くは紛争の影響を受けた人々を支援するためウクライナに送られた。  
© IFRC

# 先を見据えて： 人道的対応の長期的な拡大



ハンガリー赤十字社が支援する避難民向けの一時避難施設でウクライナ避難民2人に慰めの言葉をかける、スペイン赤十字社の救急看護師、アナ・ロベス。  
© IFRC

# 先を見据えて

ウクライナの人道危機の行方については、まだわからないことが多い。武力紛争がいつまで続くのか、今後何が必要になるのか、誰にもわからない。今わかっているのは、この**危機が長期化**し、その影響が今後何年間も続くだろうということだ。

そのため、人道支援団体、各 government、ドナーは、今後数日や数ヶ月だけでなく、今後数年にわたってウクライナ

## 現地に合わせた対応

ウクライナ危機では地域レベルでの特別な対応が見られたが、これは従来の人道支援団体のトップダウンモデルでは時に見過ごされてきたものだ。そうした対応では、赤十字・赤新月運動とその現地ボランティアの広範なネットワークが重要な役割を果たしている。緊急対応は、できるだけローカルに実施し、必要な場合に限りグローバルに行うべきだ。そのような対応では、今後も支部やボランティアが持つ現地の知識や経験が欠かせないものとなる。

の武力紛争で影響を受けた人々の支援に尽力する必要がある。復興ニーズが明らかになるにつれ、人道支援予算以外のリソースを利用することが不可欠になるだろう。今回の危機を受け、人道支援システム全体がひっ迫し、途方もない負担にさらされた。また、他の場所で生じた緊急事態に対する人道支援団体やドナーの対応能力にも長期的な影響が生じると思われる。

### モルドバ：ホストファミリーへの支援

「国を離れたのは息子の命が心配だったからです」と、数ヶ月前にウクライナを離れたディアナは言う。現在モルドバのキシナウに住んでいるミロスラバは、彼女を自宅で受け入れている。

この地域の人々は、家族や友人、さらには見知らぬ人にさえ門戸を開いている。ICRCはモルドバ赤十字社と連携し、ホストファミリーに引換券を支給するなどして、受け入れに伴う金銭的負担を支援している。

ICRCはまた、ウクライナ赤十字社、ドイツ赤十字社、マーゲン・ダビド公社と共に、高齢者や障がい者など特定の弱者をウクライナからモルドバへ安全に移送できるよう手助けしている。これらの人々は、多目的現金支給や医学的フォローアップも受けられる。



@ ICRC

## ホストコミュニティと武力紛争で影響を受けた人々のいずれのニーズにも対応した人道支援活動

住む場所を失った人々を支援し、新しいコミュニティで歓迎されると感じられるようにすることは、それまでの生活を捨てなければならなかった人々の人生を変えることになるかもしれない。支援によって孤独感を和らげ、必要なときに助けを求めやすくすることができる。



(ウクライナから来た人々は)  
ハンガリー語を話せないので、  
この社会に溶け込むことが  
本当に難しいのです。

周囲の人たちが何を言っているのか理解できなければ、社会生活を楽しむことはとてもできないでしょう。”

— ハンガリー赤十字社チョングラード郡  
ディレクターのクリスティナ。

ポーランドでは、赤十字社がウクライナから避難してきた女性を対象に、長期介護施設で働くための語学・職業訓練を実施している。このようなプログラムは、ウクライナ出身者が新天地のコミュニティに貢献し、関わり合いを深めると同時に、安定した収入源も提供することができる。

現金による支援は、社会の結束を支えることもできる。連盟は、ホストファミリーが障がい者のために家を使いやすくするのを助ける資金援助を展開しているところだ。冬の計画には、暖房や電気にかかる追加費用を補うための現金支給も盛り込まれている。このようなプログラムは、ホストファミリーが感じているプレッシャーを軽減するのに役立つ。無条件の現金支給は、受け入れ国に滞在する人々に、現地の経済に貢献する機会も与えてくれる。

### スロバキア：語学講座

オレナと息子のウラジスラフ（17歳）は、ウクライナのオデーザの自宅から避難し、4月からコシツェで暮らしている。

オレナはコシツェにある地元の赤十字社支部でスロバキア語講座を受けており、スロバキア語を習得してスロバキアで仕事を見つけ、まだウクライナに残っている夫と両親を助けたいと考えている。



@ IFRC

## 寒い季節に紛争の影響を受けた人々の安全と暖を確保する

2021～2022年の冬、ICRCはウクライナにおいて推定3万5,000人に固体燃料や現金を支給し、家の暖房や損傷した家の修繕を支援した。また、接触線の両側にある給水所を修理して、87万2,000人に水を供給するのにも貢献した。

赤十字・赤新月運動の間では、住宅の修繕や暖房用の追加費用を補うための現金支給、武力紛争の影響を受けた地域における壊れた暖房装置の修理、家や共同住宅を暖かく保つための燃料や断熱材の配付、冬服や毛布、電化製品の提供など、冬に向けた同様の準備がすでに進められている。



## 原則に基づく人道支援活動により、最も助けを必要としている人々の支援が可能に

中立・公平で独立した人道支援は、尊厳を保ち、命を救うための最も重要な手段である。赤十字・赤新月運動は、武力紛争によって人々が影響を受けているすべての地域で活動し、必要性のみに基づいて人道支援を行うことを認められなければならない。この考え方はしばしば誤解され、不評を買うこともあるが、紛争時に最も弱い立場に置かれた人々に手を差し伸べるという我々の活動の中核をなしていることに変わりはない。

ICRCは国際人道法の守護者・番人として、国際人道法の尊重をモニタリングし、守秘義務に則った二者間の対話を通じて紛争当事者にその義務を想起させる。

しかし最終的には、自らの支配下にあり、国際人道法によって保護されている人々の生命、尊厳、名誉を守ることは紛争当事者の義務である。

赤十字・赤新月運動が効果的に活動するためには、原則に基づく人道支援活動で何が達成でき、何が達成できないかを現実的に伝えるという共同責任がある。中立かつ公平という原則に基づき、ドナーは独立した人道支援活動のためのスペースを確保しなければならず、そのスペースは赤十字・赤新月運動が人道支援団体として助けを最も必要としている人々に支援を提供できるよう保護されなければならない。



## 捕虜を含む保護対象者の命と尊厳は尊重されなければならない

ICRCは紛争当事者と協力し、アゾフスターイ製鉄所からの戦闘員の安全な経路を通じた退去を支援した。またICRCは、ウクライナでの国際武力紛争に関連して、一部の捕虜を訪問してきた。ICRCは、すべての捕虜と民間人の被拘束者を不当な遅延なく訪問及び再訪問することを認められなければならない。

また、戦闘中に捕らえられた者、負傷した者、または死亡した者の安否や所在を家族に伝えられるよう、ICRCにはそれら全員の情報が提供されなければならない。ICRCが人道的任務をどれだけ遂行できるかは、国際人道法とジュネーヴ第三条約及び第四条約に基づく各国の義務の遵守にかかっている。

## 武力紛争に起因するニーズと複雑性の増大への対応

「画一的」対応や、状況やニーズの変化に応じて調整できない対応では、今回の危機に通用しないだろう。長期的な計画が重要である一方、人道支援団体は機動性を保ち、紛争の影響を受けた人々の声に耳を傾けて、対応が彼らのニーズに合っているかどうかを確認しなければならない。

赤十字・赤新月運動は、増大するニーズに応じて活動の規模を拡大・拡張し続けている。この武力紛争が引き起こした連鎖反応は、地域的にも世界的にも、食料や燃料の価格を含め、すでに重大な人道的影響を及ぼしている。

## 弱い立場にある人々が必要とする最も適切で尊厳のある支援を提供する

現金は、ウクライナの武力紛争で影響を受けた人々を支援する最も強力な方法の1つだ。食料、衣類、玩具、アクティビティ、あるいはまったく別のものなど、自分や家族が必要としているものは本人が一番よく知っている。

赤十字・赤新月運動は、武力紛争の影響を受けた人々のニーズに応えるために、人道支援の現金支給を引き続き拡大していく予定である。現金支給は、他のセクターのニーズに組み込むこともできる。例えば、事業を再び軌道に乗せようとしている小企業の経営者や農家に現金を支給して家族を養えるようにすることもできるし、

例えば、「アフリカの角」では人々が極度の飢餓に陥っている。インフレと必需品不足によって、生きていくために必要な基本物資を入手することはますます困難になるだろう。

地球規模でのこうした新たな現実の下では、最も助けを必要としている人々を継続的に支援できるよう、適応性と柔軟性のあるアプローチが必要である。

ザカルバチアでは、ウクライナ赤十字社の巡回診療チームが遠隔地の村を訪れ、避難民と地元住民の両方に医療支援を提供している。これらの村の住民は、交通手段がなかったり遠距離であったりするため、医療センターに行くことが難しい。巡回診療チームは、オーストリア赤十字社から寄せられた救急車によって移動している。

© IFRC





モルドバでは、ウクライナからの避難民の大半がホストファミリーの家に滞在している。モルドバ赤十字社は、ホストファミリーが避難民支援を継続できるよう、連盟や他の赤十字・赤新月パートナーの援助を受けて衛生キットや毛布などの物資を配付している。この配付は、トルコ赤新月社の援助を受けて行われた。

© Turkish Red Crescent

“

私たちを助けてくれたそれぞれの組織にとても大きな感謝の気持ちを伝えたいと思います。食べ物や避難所を与えてくれたからです。皆さんの幸せを願っています。”

— ハンガリーにある赤十字社の避難所に2人の娘と4人の孫とともに身を寄せている祖母のリュドミラ。

2022年2月24日、ウクライナで武力紛争が始まったとき、現地赤十字社のボランティアと職員は紛争の影響を受けた人々を支援するために各地に派遣され、移動中の人々に食料や物資を配付したり、国境を越える人々を出迎えたり、防空壕にいる人々に応急処置を教えていた。半年後、ニーズは変化しているが、赤十字社はまだ現場にとどまっており、語学を教え、冬支度を手助けし、紛争によって身内の消息が途絶えている家族の苦しみを和らげるために活動している。

そして、この壊滅的な人道危機の影響を受けている人々が必要な支援を受けられるよう、今後も数日、数ヶ月、数年にわたり現場にとどまり続ける。世界中のドナーからの惜しみない支援を受けて、1つの運動として活動する赤十字・赤新月社は現場にいるだろう。



3月22日、リュドミラ（2人の娘と4人の孫とともにウクライナのドンバス地域からハンガリーに逃れてきた。彼らはハンガリー南東部のセグドにおいて、ハンガリー赤十字社が提供する避難所で暮らしている。一家は赤十字社から資金援助を受けており、子供たちのために果物や乳製品などの食料を購入するのに使っている。  
© IFRC

# 国際赤十字・赤新月運動の 基本原則

## 人道

国際赤十字・赤新月運動（以下、赤十字・赤新月）は、戦場において差別なく負傷者に救護を与えることを目的としています。その目的は生命と健康を守り、人間の尊重を確保することにある。赤十字・赤新月は、すべての国民間の相互理解、友情、協力、および堅固な平和を助長する。

## 公平

赤十字・赤新月は、国籍、人種、宗教、社会的地位または政治上の意見によるいかなる差別をもしない。赤十字・赤新月はただ苦痛の度合いにしたがって個人を救うことに努め、その場合もっとも急を要する困苦をまっさきに取り扱う。

## 中立

すべての人からいつも信頼を受けるために、赤十字・赤新月は、戦闘行為の時いずれの側にも加わることを控え、いかなる場合にも政治的、人種的、宗教的または思想的性格の紛争には参加しない。

## 独立

赤十字・赤新月は独立である。各国の赤十字社、赤新月社は、その国の政府の人道的事業の補助者であり、その国の法律に従うが、常に赤十字・赤新月の諸原則にしたがって行動できるよう、その自主性を保たなければならない。

## 奉仕

赤十字・赤新月は、利益を求める奉仕的救護組織である。

## 単一

いかなる国にもただ一つの赤十字社あるいは赤新月社しかありえない。赤十字社、赤新月社は、すべての人々に門戸を開き、その国の全領土にわたって人道的事業を行なわなければならない。

## 世界性

赤十字・赤新月は世界的機関であり、その中においてすべての赤十字社、赤新月社は同等の権利を持ち、相互援助の義務を持つ。